

Press Release

2024 年 9 月 吉日

公益財団法人日本オペラ振興会 <https://www.jof.or.jp>

誤解と和解、そして愛への忠実。
運命に翻弄された女性ピアの慈悲に満ちた物語

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

藤原歌劇団創立 90 周年記念公演・NISSAY OPERA 2024

総監督 折江忠道

G.ドニゼッティ作曲

「ピア・デ・トロメイ」

Pia de' Tolomei

オペラ全 2 幕 〈字幕付き原語（イタリア語）上演〉ニュープロダクション



2024 年 11 月 22 日（金）・23 日（土・祝）・24 日（日）14:00 開演
日生劇場

【開場 13:00】*13:15 から会場内にて作品解説をいたします。※上演時間：約 2 時間（休憩含む）

- 主催：公益財団法人日本オペラ振興会
- 共催：公益財団法人ニッセイ文化振興財団 [日生劇場]
- 助成：文化庁、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
- 後援：イタリア文化会館

本公演に関するお問い合わせ、および取材のお申込み

公益財団法人日本オペラ振興会 広報担当：中ノ森・外山

〒151-0061 東京都渋谷区初台 2-5-8 西新宿豊国ビル 102

Tel: 03-6721-0995 / E-mail: press@jof.or.jp

ベルカントオペラの神髄がここに――

音楽と物語の秀逸な調和に、心振るわせる体験を。

藤原歌劇団創立 90 周年に日生劇場とのコラボレーションでお届けするのは、ベルカントの巨匠ドニゼッティがその絶頂期に遺した傑作の一つ「ピア・デ・トロメイ」です。

ダンテの「神曲」にも登場し、嫉妬と誤解によって運命を狂わされた「トロメイ家のピア」の悲劇と慈愛を描いた本作。タイトルロールを演じるのは、今や藤原歌劇団のプリマドンナとして一線で大活躍中の伊藤晴(11/22&24)、そして、確かな声と技術で絶大な信頼と喝采を得ている迫田美帆(11/23)が務めます。ピアの夫でマレンマ当主のネッコに、若手でありながらベルカントのバリトン役に多く抜擢され、安定した歌唱と美声を持つ井出壮志朗(11/22&24)と、ベテランで常に多くの観客を魅了し続ける森口賢二を配しました。テノール役には珍しい悪役、ネッコの従弟ギーノを演じるのは、藤田卓也(11/22&24)と海道弘昭(11/23)のふたり。ピアの弟でズボン役のロドリゴは、星由佳子(11/22&24)と北菌彩佳(11/23)が演じます。その他、藤原歌劇団を代表する歌手がこの傑作を彩ります。

率いるは、世界中で活躍しオペラでも高い評価を得ている飯森範親と、最前線でありながら伝統に裏付けされた演出のマルコ・ガンディーニ。オーケストラには、藤原歌劇団とは 2 回目となる緻密な演奏に定評のある新日本フィルハーモニー交響楽団。これぞベルカントオペラという秀逸な舞台と珠玉のアリアの数々。美しく研ぎ澄まされた旋律が聴衆の皆様の心に深く染み入るでしょう。日本での上演機会の少ない貴重な演目、そして美しい音楽と舞台に、ぜひご期待ください！

〈あらすじ〉

ダンテ・アリギエーリの『神曲』の煉獄篇・第五歌に歌われたピアの物語。マレンマのラ・ピエトラ城の城主ネッコの妻ピアに横恋慕するいとこのギーノは、ピアに拒まれた仕返しに、彼女が不実を働いているとネッコに告発する。じつは、対立するグェルフィ党に属し囚われていた弟のロドリゴを、ピアは助けて逃がしたのだった。男のことを問われても口を閉ざすピアを、ネッコは牢に閉じ込め殺すよう指示する。ギーノは自分の愛に屈すれば救うとピアに迫るが、貞節なピアは彼を拒絶する。グェルフィ党との闘いで深手を負ったギーノが、死の間際にピアの無実を打ち明ける。毒殺を命じてしまったネッコは、必死にピアのもとへと走るが空しく息絶える。

〈見どころ・聴きどころ〉

1835 年にガエターノ・ドニゼッティは、「愛と死」というロマン派的な対照を見事に描いた不滅の秀作「ルチア」を創り上げた。ドニゼッティの特徴的な、繊細な心理状態や精神的な動きを浮かび上がらせる音楽的表現、ドラマの緊迫感の持続は「ピア・デ・トロメイ」でも際立つ。このオペラは 1837 年 2 月 18 日にヴェネツィアで初演されているが、同年 7 月のセニガッリアの公演のために第一幕のフィナーレが手直しされ、さらに 1838 年 9 月 30 日のナポリのサン・カルロ劇場の公演のためにも改訂されている。ナポリの上演の際には、検閲の命令でオペラの最後がピアの死で終わらず、ハッピーエンドに変更せざるを得なかった。今回の公演では、第一幕フィナーレをセニガッリア版とナポリ版のコンチェルトに差し替えて上演される。

この作品では、夫への一途な愛を貫く純真なピア（慈悲深いという意味の名）と、愛に燃える男たちの嫉妬や怒り、浄化、慈悲、苦悩、懇願、闘志などの心理を個別に浮き立たせるように構成されている。第一幕フィナーレのコンチェルトにおいては、声と感情とのロマン派的一致が素晴らしい。また合唱が重要な役割を担っており、場面を際立たせる。そしてピアの純真な柔らかさがギーノの心を浄化していく場面や、彼の死に際の

シーン、ピアの最期は、天才ドニゼッティのエッセンスが凝縮されていて魅き寄せられる。

時折「あれっ？ この旋律は？」と気づく、後のヴェルディの旋律が聴こえてくる。またコーラスには、第一幕の女声合唱で「アデライデ」や後の「ラ・ファヴォリータ」で使われた曲が、そして第二幕の男声合唱では、歌曲集『インフラスカータの秋の夕べ』に収められているボレロ「スペインの恋人 L'amante spagnolo」など、ドニゼッティのお気に入りの旋律が使われている。ロッシーニからヴェルディへの橋渡しをした、作曲家ドニゼッティの重要な役割が浮き立つ作品である。

●チケット好評発売中！

S席 ¥15,000/A席 ¥12,000/B席 ¥9,000/C席 ¥6,000/D席 ¥4,000

・ヤング・フレッシュマンチケット

S席～B席：満25歳以下の方を対象に通常料金の半額でお申し込み頂けます。

・障がい者割引

S席～B席：通常料金の20%引きでお申し込み頂けます。

お付き添いの方1名様は、通常料金の10%引きでご一緒にお申し込み頂けます。

藤原歌劇団創立90周年記念チケット

[1] 帝国ホテル東京 デイナー付きペアチケット：¥90,000 (S席2枚)

- ・出演者サイン入りプログラム (販売価格¥1,000) 2冊付き
- ・帝国ホテル レストラン「レ セゾン」ペアディナー
- ・帝国ホテル シャンパンバー「The Rendez-Vous AWA」ペアアペリティフ

[2] ドリンク付きペアチケット：¥33,000 (S席2枚)

- ・有料プログラム (販売価格¥1,000) 2冊付き
- ・サイン入り公演写真 (販売価格¥500円) 2枚付き
- ・スパークリングワインチケット2枚付き (アルコール以外のドリンクも選択可)

[3] オリジナルグッズ付きチケット：¥16,000 (S席1枚)

- ・有料プログラム (販売価格¥1,000) 1冊付き
- ・サイン入り公演写真 (販売価格¥500円) 1枚付き
- ・日本オペラ振興会オリジナルグッズ (クリアファイル/90周年記念ステッカー)

※日本オペラ振興会チケットセンターへのお電話申込みの方限定特典となります。

※ [1] 帝国ホテルディナー付きプランは、各日限定5組10名様となります。

終演後シャンパンバーをお楽しみいただき、その後レストランでのお食事のプランです。

16:30～ アペリティフ (The Rendez-Vous AWA)

17:30～ ディナー (レ セゾン)

レストラン「レ セゾン」でお飲みになるドリンクはご負担ください。

申込締め切り：11月1日(金)まで

※ [2] [3] サイン入り公演写真は、全ての出演者のご用意はございませんので予めご了承ください。

種類は公演当日、販売所にてご確認ください。

●お問い合わせ・予約

日本オペラ振興会チケットセンター 03-6721-0874 (平日 10:00~18:00)

【座席選択可・PC&スマートフォン】 <https://mmct.jcity.com/?c=68&e=nhfARdvwgIdEMBgpnTKT%3DQ11>

〈主要キャスト・スタッフプロフィール〉

指揮 飯森範親

Norichika

IIMORI

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは密接な関係を続け、正指揮者、特別客演指揮者を務めた。03年、NHK 交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督（GMD）に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。06年の日本ツアーを成功に導き、2017年5月にはミュンヘンのヘルクレスザールを始めドイツ国内のツアーにて指揮。同年9月にはポーランドのオルシティン・フィルのシーズン開幕を指揮し成功を収めている。07年から山形交響楽団の音楽監督に就任、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動発展と水準の向上に目覚ましい成果を挙げたことで 2011年齋藤茂吉文化賞を受賞。現在、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、群馬交響楽団常任指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。オフィシャル・ホームページ <http://iimori-norichika.com/>



演出 マルコ・ガンディーニ

Marco GANDINI

1966年生まれ。俳優としてそのキャリアを始める。1990年と翌91年にはローマ・オペラ座及びカラカラ浴場において、舞台監督及び演出助手として公演を成功に導く。その後、G.モンタルド、M.ボロニーニ、P=L. ピッツィ、U.デ・アナ、N. エスペルトの第一助手を務める。92年には、オペラと映画の両分野においてF.ゼッフィレリとの協力関係が始まり、多くの公演を手掛けた。97年、ヴェローナのフィラルモニコ劇場にて「ジャンニ・スキッキ」で演出家としてデビュー。ザルツブルク聖霊降臨祭音楽祭にてR.ムーティ指揮/モーツァルトのオラトリオ「救われたベトゥーリア」の演出を手掛けたほか、ソウルにてミョンファン指揮「シモン・ボッカネグラ」「ラ・ボエーム」、ローマ歌劇場「ラ・ボエーム」、フィレンツェ五月音楽祭「ランスへの旅」、モスクワのノーヴァヤ歌劇場「イル・トロヴァトーレ」、サンパウロ市立劇場「アイダ」「エウゲニ・オネーギン」「トスカ」、エストニア国立オペラ「フィガロの結婚」、ヴィチエンツァ・オリンピコ劇場「結婚手形」、スカラ座のアカデミー公演「セビリヤの理髪師」等を手掛けている。藤原歌劇団には、「愛の妙薬」「フィガロの結婚」「イル・カンピエッロ」を手掛けている。現在、昭和音楽大学の客員教授を務めており、07年より大学オペラの演出を手掛け、「ピーア・デ・トロメイ」（日本初演）をはじめ、「ファルスタッフ」「オベルトサン・ボニファーチョ 伯爵」「夢遊病の娘」「コジ・ファン・トゥッテ」「ドン・ジョヴァンニ」「フィガロの結婚」「愛の妙薬」で好評を得ている。



ピエーア役 (11/22&24) 伊藤 晴

Hare ITO

三重大学卒業、武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽を積み、2013年パリ地方音楽院修了。第9回藤沢オペラコンクール第2位。第82回日本音楽コンクール入選。これまでに、日本オペラ連盟文化庁新人育成公演「修道女アンジェリカ」タイトルロールをはじめ、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ、「フィガロの結婚」スザンナ、プーランク「声」、丹波明「白峯」（世界初演）待賢門院などで出演し、いずれも高い評価を得ている。藤原歌劇団には、14年「ラ・ボエーム」のムゼッタでデビューし、以降17年及び20年「カルメン」ミカエラ、19年「ラ・トラヴィアータ」ヴィオレッタ、19年「愛の妙薬」アディーナ、21年「ラ・ボエーム」ミミ、21年及び23年「蝶々夫人」タイトルロールでいずれも好評を得ている。その他、ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン 2019「貞節の勝利」ドラリーチェに出演。また、日本オペラ協会には16年「天守物語」の亀姫、18年「夕鶴」ついで出演。近年では、15年飯森範親指揮/山形交響楽団「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト子どものためのオペラ「子供と魔法」安楽椅子/こうもり及び「ジャンニ・スキッキ」ネッラ、20年チョン・ミョンフン指揮/東京フィルハーモニー交響楽団「カルメン」（演奏会形式）フラスキータ等、各地でオペラに出演。また、小澤征爾指揮/セイジ・オザワ松本フェスティバル15ロームシアター京都竣工式「第九」、18年パティストニ指揮/東京フィルハーモニー交響楽団「カルミナ・ブラーナ」の他、19・21年NHKニューイヤーオペラコンサート、NHKナゴヤニューイヤーコンサート2021に出演し、好評を得ている。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。名古屋音楽大学講師。三重県出身。



ピエーア役 (11/23) 迫田美帆

Miho

SAKODA

東京藝術大学卒業。2017年、サントリーホール オペラ・アカデミー・アドバンス・コース第2期修了。第50回日伊声楽コンクール、第13回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第86回日本音楽コンクール 声楽部門入選。中畑和子、直野賢、M.ザンビエリ、G.サッパティーニの各氏に師事。これまでに、「ドン・ジョヴァンニ」ドンナ・エルヴィーラ、「愛の妙薬」アディーナ、「リゴレット」ジルダなどで出演。19年にはサントリーホール オペラ・アカデミー公演「フィガロの結婚」伯爵夫人で出演している。藤原歌劇団には、19年「蝶々夫人」のタイトルロールで鮮烈なデビューを飾って好評を博し、21年「フィガロの結婚」伯爵夫人、22年「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージで出演。また、ベルカントオペラフェスティバル イン ジャパン 2019「貞節の勝利」ではズボン役となるリッカルドを演じた。近年では、NISSAY OPERA 2021「ラ・ボエーム」（日本語訳詞上演）のミミで好評を得た。ソリストとしては、G. サッパティーニ指揮/ロッシニ「小荘厳ミサ曲」、ベートーヴェン「第九」に出演する他、21年には東京フィルハーモニー交響楽団「第九」にてソプラノ・ソロを務めるなど各方面で活躍している。いずれも磨かれたテクニックと深い解釈に裏づけされた、安定したのびやかな歌唱が高く評価されている。藤原歌劇団団員。東京都出身。



ネッロ役(11/22&24) 井出壮志朗

Soshiro IDE

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。第27回奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第2位。第47回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞受賞。第55回日伊声楽コンクール入選。第17回東京音楽コンクール第3位他、多数の賞を受賞。2015年文化庁・次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「ラ・ボエーム」ショナールでオペラデビュー。16年東京芸術劇場コンサートオペラ vol.3「サムソンとデリラ」ペリシテ人に出演。20年全国共同制作オペラ「ラ・トラヴィアータ」の使者で出演している。その他、これまでに「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「コジ・ファン・トゥッテ」グリエルモ、「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロール、「セビリヤの理髪師」フィガロ、「イル・トロヴァトーレ」ルーナ伯爵、「ラ・トラヴィアータ」ジェルモン、「ラ・ボエーム」マルチェッロ、「ジャンニ・スキッキ」タイトルロール、「カルメン」エスカミーリョ、「ファウスト」ヴァランタン、「ラ・ボエーム」マルチェッロなど、多数のオペラに出演し高い評価を得ている。藤原歌劇団には、20年「カルメン」のエスカミーリョでデビュー。21年「フィガロの結婚」アルマヴィーヴァ伯爵、「蝶々夫人」シャープレス、「清教徒」リッカルドで出演。



新進気鋭のバリトンとして注目を集めている。その他、18年武蔵野音楽大学管弦楽団合唱団演奏会「第九」など、交響曲や宗教曲のソリストでも好評を得ている。藤原歌劇団団員。神奈川県出身。

ネッロ役(11/23) 森口賢二

Kenji MORIGUCHI

国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。2001～03年及び06～08年に文化庁新進芸術家海外派遣制度研修員として渡伊。第35・36回日伊声楽コンクール、第68回日本音楽コンクール声楽部門、第47回ヴェルディの声国際コンクール入選。第22回飯塚新人音楽コンクール、第36回ローマフェスティヴァル2007国際コンクール第1位。留学中、ローマのオリンピコ劇場等、各地でオペラやコンサートに出演。03年愛知県芸術劇場「異説・カルメン情話」エスカミリーヨをはじめ、帰国後は各地で「ルチア」「リゴレット」「トスカ」等に出演の他、富山オーバード・ホール/ミョンフン指揮「カルメン」「ラ・ボエーム」、産経新聞社主催/ルイゾッティ指揮「蝶々夫人」、日本オペラ団体連盟主催人材育成オペラ公演「ジャンニ・スキッキ」、サントリーホール20周年記念公演/ブルゾン共演「ファルスタッフ」などで好演。藤原歌劇団には、06年「ランスへの旅」トロンボク男爵でデビュー後、「愛の妙薬」ベルコーレ、「セビリヤの理髪師」フィガロ、「ラ・ボエーム」ショナール、「オリイ伯爵」ランボー、「ファルスタッフ」フォード、「ラ・トラヴィアータ」ジェルモン、「仮面舞踏会」レナート、「ドン・パスクワレ」マラテスタ、「道化師」シルヴィオ、「イル・カンピエッロ」アストルフィに出演し、いずれも好評を博している。藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。神奈川県出身。<http://operaland.ciao.jp/kenjimoriguchi/>



ギーノ役 (11/22&24) 藤田卓也

Takuya FUJITA

島根大学卒業、同大学大学院修了。エンミー・デスティン創設音楽コンクール2004第2位。第40回アントニン・ドヴォルザーク国際声楽コンクール・オペラ部門第2位等多数受賞。ウィーン留学中、スロヴァキアのコンツェ国立歌劇場「ラ・トラヴィアータ」アルフレード、パンスカー・ピストリツァ国立歌劇場「ラ・ボエーム」ロドルフォに出演し注目を集め、ウィーン室内歌劇場、シェンブルン宮殿劇場でのオペラ公演、またチェコやポーランドでの国際音楽祭に出演し、成功を収めた。藤原歌劇団には、14年下関において創立80周年記念公演「藤原義江記念コンサート」の出演を経て、15年「仮面舞踏会」のリッカルドでデビュー以降、「ドン・パスクワレ」エルネスト、「カルメン」ドン・ホセ、「ノルマ」ポッリオネ、「道化師」カニオ、「蝶々夫人」ピンカートン、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「トスカ」カヴァラドッシなど、プリモテノールの役でいずれも高い評価を得ている。日本オペラ協会には「夕鶴」を演じた。その他、16年ベルガモの聖ジョヴァンニ・ボスコ劇場「清教徒」のアルトゥーロでイタリアデビュー。国内でも、日生劇場「トスカ」カヴァラドッシなどのオペラや、山口、広島をはじめ各地でオペラ、コンサートに出演し活躍を続けている。平成20年度山口県芸術文化振興奨励賞受賞。平成25年度エネルギー音楽賞受賞。平成28年長門市子ども教育夢基金奨励賞。藤原歌劇団団員。大阪音楽大学特任准教授。くらしき作陽大学非常勤講師。山口県出身。<http://fdinc.jp/fujitatakuya.html>



ギーノ役(11/23) 海道弘昭

Hiroaki

KAIDO

国立音楽大学卒業。2012年NPO事業によりイタリアへ2年間留学。どみそグループ専属歌手、NPO事業演奏研究員。2015年、サントリーホール等にて動員総数4,000名のデビューリサイタルを成功。TV番組「みんなの音楽会TV」にレギュラー出演し、L.ヌッチら世界的歌手との対談や共演が話題を呼んだ。第46回イタリア声楽コンクール・シエナ大賞受賞。第1回V.テッラーノヴァ国際声楽コンクール優勝。日本オペラ協会では、2020年「紅天女」仏師・一真で大成功を収め、以降21年「キジムナー時を翔ける」マサキ、22年「ミスター・シンデレラ」伊集院正男、「源氏物語」頭中将、24年「ニングル」の才三で出演しており、高い評価を得ている。藤原歌劇団には、21年「ジャンニ・スキッキ」リヌッチョ、22年「イル・カンピエッロ」ゾルゼート、23年「二人のフォスカリ」ヤコポ・フォスカリで出演。キングレコード収録「ベルカントの女王」世界的ソプラノ歌手M.デヴィーアとの共演オペラアリア集を自身3枚目のCDとしてリリース。BS12トゥエルビ「童謡コーラス♪名曲大合唱～今は一人で、みんなと歌えるその日まで～」(毎週：日曜夕方4時放送)にて、全国放送BS番組のレギュラー出演で活躍の場を広げている。日本オペラ協会会員。藤原歌劇団団員。埼玉県出身。



藤原歌劇団創立 90 周年記念公演・NISSAY OPERA 2024

G.ドニゼッティ作曲「ピアア・デ・トロメイ」

Gaetano DONIZETTI / PIA DE' TOLOMEI

オペラ全2幕 (字幕付き原語 (イタリア語) 上演) ニュープロダクション

【公演日程】2024年11月22日(金)・23日(土・祝)・24日(日) 14:00 開演

【会場】日生劇場

【チケット料金】S席¥15,000/A席¥12,000/B席¥9,000/C席¥6,000/D席¥4,000

【藤原歌劇団創立90周年記念チケット】

[1] 帝国ホテル東京 デイナー付きペアチケット：¥90,000 (S席¥15,000×2枚)

[2] ドリンク付きペアチケット：¥33,000 (S席¥15,000×2枚)

[3] オリジナルグッズ付きチケット：¥16,000 (S席¥15,000×1)

総監督 折江忠道
General Artistic Director Tadamichi ORIE
指揮 飯森範親
Conductor Norichika HIMORI
演出 マルコ・ガンディーニ
Stage Director Marco GANDINI

	11/22&24	11/23
ピアア	伊藤 晴	迫田美帆
Pia	Hare ITO	Miho SAKODA
ネッロ	井出壮志朗	森口賢二
Nello	Soshiro IDE	Kenji MORIGUCHI
ギーノ	藤田卓也	海道弘昭
Ghino	Takuya FUJITA	Hiroaki KAIDO
ロドリゴ	星 由佳子	北蘭彩佳
Rodrigo	Yukako HOSHI	Saika KITAZONO
ランベルト	龍 進一郎	大澤恒夫
Lamberto	Shinichiro RYU	Tsuneo OSAWA
ウバルド	琉子健太郎	西山廣大
Ubaldo	Kentaro RYUSHI	Kodai NISHIYAMA
ピエーロ	相沢 創	別府真也
Piero	Hajime AIZAWA	Shinya BEPPU
ビーチェ	黒川亜希子	三代川奈樹
Bice	Akiko KUROKAWA	Nana MIYOKAWA
牢番	濱田 翔 (両日)	
Il Carceriere	Sho HAMADA	

合唱 藤原歌劇団合唱部 Fujiwara Opera Chorus Group

合唱指揮	安部克彦
Chorus Master	Katsuhiko ABE
美術	イタロ・グラッシ
Scenery Designer	Italo GRASSI
衣裳	マリオ・ディーチェ
Costume Designer	Mario DICE
照明	西田俊郎
Lighting Designer	Toshiro NISHIDA
舞台監督	斉藤美穂
Stage Manager	Miho SAITO
副指揮	玉崎優人、榎 真由
Assistant Conductor	Masato TAMASAKI、Mayu SAKAKI
演出助手	堀岡佐知子
Assistant Stage Director	Sachiko HORIOKA

公演特設サイト <https://www.jof.or.jp/performance/2411-pia>

【お問い合わせ・予約】

日本オペラ振興会チケットセンター 03-6721-0874 (平日 10:00~18:00)

【チケット販売所】

- ・日生劇場 <https://www.nissaytheatre.or.jp/> (web サイトのみの販売)
- ・チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード: 267-211)
- ・イープラス <https://eplus.jp>
- ・ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード: 34157)
- ・teket <https://teket.jp/9911/36219>

〈あらすじ〉

1260年頃のイタリア中部トスカーナ地方。グエルフ党(教皇派)に属するシエナのトロメイ家のピーアは、ギベリン党(皇帝派)に属するマレンマのラ・ピエトラ城の城主ネッコのもとに、政治的和平のために嫁ぐ。しかしピーアの弟のロドリゴは対立を起こし、ギベリン党の牢に捕らえられている。

第1幕

ネッコの忠臣ウバルドは、夜中に密使が運んできた手紙を、ネッコのいとこのギーノに渡す。手紙はピーアに宛てたもので、そこには「真夜中、夫が不在の時に逢いに行く」と書かれてあった。彼女に横恋慕しているギーノは、それが男との密会の手紙だと思い込み、ピーアの不貞に嫉妬と怒りを募らせる。さらにギーノはピーアの侍女から、「二度と自分の前に現れないで欲しい」というメッセージが伝えられ、彼女に拒絶された屈辱感から、戦場にいるネッコの処へ行き、ピーアの不貞を暴いて復讐しようとはかる。

一方ピアは自室で、捕らえられている弟のことを案じている。彼女は密かに看守を買収して弟の逃亡を企てたが、何の知らせもないため、計画が失敗したのかと不安に駆られている。すると昔からトロメイ家に仕える家臣のランベルトが、ある男からピアに渡すよう言われたと例の手紙を持って入ってくる。筆跡からその手紙が弟からのものと分かり、彼女は弟に逢えることを喜ぶ。

戦場の陣営ではネッコが、和平を破ったロゴリードを殺すことを決意するが、弟思いの妻ピアのことが気に掛かっている。そこにギーノが現れ、ピアの裏切りを告発する。ネッコは激しく動揺し、怒りに震える。そしてギーノは、ピアのもとに男がやって来る現場を自分の目で見ようネッコに促し、二人は城へと急ぐ。

地下牢にいるピアの弟ロドリーゴは、自分が死んだら彼女も命を落とすだろうと苦悩している。そこにパンと水を運んできた看守が、次に引き継ぐ見張り番を買収したと耳打ちする。ロドリーゴはギベリン党と戦うために、ふたたび戦場へ戻ると言い、牢から脱出する。

自室で弟を待つピアにランベルトは、周囲に武装した者たちが身を隠して罌を仕掛けてしていると告げる。ロゴリードがやってきて姉弟が抱き合う中、扉を叩く音がしネッコが開けるよう叫ぶ。立ち向かおうとするロドリーゴをランベルトが止め、秘密の抜け道から彼を逃がす。ネッコがならず者を追うよう武装した家臣らに命じ、剣を抜いてピアを殺そうとするが、ギーノが彼の剣を取り上げる。ピアは気を失って倒れる。

緊張の空気の中、ギーノはピアの打ちひしがれた姿に哀れみを感じ始め、ネッコはピアの罪にもはや希望はないと語り、意識が戻ったピアは不吉なヴェールに覆われるような死の瞬間を感じる。ネッコは男をどこへ逃がしたのかとピアに詰問するが、ひたすら死を望む彼女に、縛り上げてマレンマの牢に入れるよう命じる。

第2幕

ピアの部屋から逃走したロドリーゴはランベルトから、彼女が牢に閉じ込められ死を待っていると聞き、怒りに駆られる。その時敵の奇襲を告げるラッパが鳴り響き、ロドリーゴとグエルフィ党の兵士たちは、ギベリン党に対する闘志を燃やす。

ギーノはピアのもとに行き、自分の愛に屈すれば助けると申し出る。「私はネッコの妻です」と言う彼女に、男を部屋に迎え入れた「不貞な妻だ」とギーノが言い返すと、それは誤解であり、あの夜逢っていたのは弟のロドリーゴであることをピアが打ち明ける。ギーノは自分だけがお前を救えるとさらに迫るが、それならば死を選ぶとピアははっきり告げ、夫への愛を貫く。そしてギーノに跪きながら、心からの願いを訴える。誠実なピアの柔らかさに満ちた言葉に、ギーノの心は次第に慈悲に包まれていく。彼はネッコに誤解であったことを告げて、ネッコの怒りを消すことをピアに約束し発つ。

ウバルドは、夜明けにピアを殺すようにというネッコからの命令書を受け取る。

激しい嵐が荒れ狂う中、突然グエルフィ党の大群の奇襲に遇ったネッコが、隠者の庵に逃げてくる。隠者ピエーロはネッコに、神の意志に従ってピアへの怒りを鎮めるよう諭す。ネッコはピエーロの腕に身を投げながら、不実なピアを憎んでいるがまだ愛していると苦悩を訴える。そこにグエルフィに襲われ瀕死の状態のギーノが現れ、あの夜ピアのもとに来た男は彼女の弟であり、彼女を救うよう告げる。そしてギーノは、ピアに横恋慕していたこと、嫉妬から犯した自らの罪を打ち明けて息絶える。嵐が収まる夜明けまで待つよう隠者たちは止めるが、毒殺を命じてしまったネッコは、神に祈りながら必死にピアのもとへと走る。

ピアの牢獄では、水の入った杯にウバルドが毒を注ぎ、ピアはそれを飲む。絶望の境地の中でピアが愛する夫ネッコを呼び求めると、彼女の名を叫びながらネッコが入ってくる。続いてピアの弟のロドリーゴも兵士を連れて入ってくる。ネッコは恨みを晴らすためにピアに毒を飲ませたと話すと、ロゴリードが彼を殺そうと襲い掛かる。ピアは最後の力を振り絞ってロゴリードの足元に倒れ込み、ネッコの誤解であったことを訴える。そしてネッコとロドリーゴが永遠に心をつなげるよう和平を懇願しながら、ピアはネッコの腕の中で息を引き取る。